

令和6年度対話の広場(県西会場)
「SDGsで、県西地域の未来を創る！～未病の戦略的エリアの先進的な取組～」
いただいたご意見等への対応状況等

【対応区分】

- A: “対話の広場”をきっかけに、新規の計画・事業を検討する(対応する方向である)
 B: “対話の広場”をきっかけに、既存の計画・事業の見直し等を行う(対応する方向である)
 C: “対話の広場”開催時点にて、既に実施している(既に対応している)
 D: 特に対応を予定していない。

No.	関係所属名	参加者からの主な意見等	対応区分	対応状況(R7.3.14時点)
1	産業労働局 (産業振興課)	人口が減っていく中で、やらなくてはならない範囲が広がっていくと、共倒れになってしまい、どうしても優秀な人も潰れてしまう。例えば、技術の自動化などが大事になってきていると思うが、県として、技術革新や既存の技術の持続化みたいなところに関して、どの程度関心があるのかを伺いたい。	C	県ではこれまで、「さがみロボット産業特区」で生活支援ロボットの開発や実装を支援し、令和5年度末までに、病院、ホテルなど約400の施設への導入に繋げてきました。また、人手不足が深刻化している介護施設や、在宅介護が抱える課題を解決するため、介護に適したロボットの導入実証や改良等を支援しています。 また、県内でのドローン実装を促進するため、県内産業や地域が抱える課題の解決に資するドローンの開発及び実証を支援しています。 さらに、(地独)神奈川県立産業技術総合研究所では、県内企業が持つ技術的課題の解決や新技術・製品の開発等の支援に加え、生成AI等を活用した製品・評価に取り組んでいます。
	県土整備局 (交通政策課)			技術の自動化のうち自動運転バスについては、運転手不足によるバスの減便に対応する解決策の一つと考えています。 県は、実証実験の実績がない県西地域において、地元市などと自動運転バスの導入に向けた取組を行っていきます。
2	教育局 (教職員人事課)	SDGsの目標の中に、「質の高い教育を」という目標があると思うが、一方ではその質の高い教育を担保する教員が不足しており、日本全国で問題になっている。県立の先生と話をすると、小・中・高も教員が足りないという話をよく聞く。合理的配慮や多様化する教育に対応していくためには、教員の数が必要だと思うが、神奈川県教育行政として、今後教員をどのように増やしていくのか伺いたい。	C	教員不足に対する新たな取り組みとして、令和7年度採用に向けては、小学校を対象とした教員採用試験(秋期試験)を実施しました。また、社会人経験者が教員採用試験を受験しやすくなるよう、社会人特別選考の受験資格要件緩和を行い、採用試験合格後教員免許を取得する人の採用試験受験を可能にする特例選考を設けています。 さらには、育児休業等の代替職員の確保に向け令和7年1月より、臨時的任用教員の登録にあたって、これまでの対面や郵送に加えて、スマートフォン等による電子申請ができるよう、利便性を向上させました。